

一般質問

市民の声を代表して 20人が質問

議員は、市長などに対して、市の仕事の状況や将来の方針などを質問することができます。これを「市政に関する一般質問」と呼んでいます。

今回の定例会では、20人の議員が市民の皆さんを代表して一般質問をしました。どのような質問と答弁のやり取りがあったのか、ご紹介していきます。

子育て環境の充実を！

齋藤 久代 議員

問 子育て世代を呼び込むことは大変重要なテーマ。市長の取り組み姿勢を伺う。

市長 安心して子どもを育てられる環境づくりをPRしたい。あわせて、子育てをする母親が地域の地縁や共助、公助にアクセスしやすくなるよう取り組みたい。

問 市長から、駅前にも二児童館という発言があった。詳しく聞かせてほしい。

答 駅前に母と子のプレイルームを設置したいと話した。人が集まる所に設置できないか検討中。

問 病後児保育の実施について、市の取り組みは。

健康福祉部長 民営化した稲保育園で7月をめどに実施したい。4月に民営化される井野と戸頭東の保育所でも、今後立ち上げてほしいと考えている。

問 就職活動中の保育支援について、一時保育の料金は大きな負担。一番困る時期なので支援できないか。

答 減免制度がない。今後研究し、トータル的な支援をしていきたい。

問 子どもを抱えて市役所に来る母親が、気持ち良く用事を済ませるように工夫をお願いしたい。

答 職員がサポートしていることを確認している。対応策を続けていきたい。

行政は「安心のためのコスト」

平 由子 議員

問 放射能でどうなるか。生命発生時からDNAの敵は空から降りそそぐ紫外線と放射線だった。事故が起これば原発から放射能が漏れる。放射能はDNAを傷つける。人が放射能を浴びる致死量は6シーベルト。0.25シーベルト以下では目に見える変化はないが、顕微鏡で見ると、染色体が切れているのが見られる。特に小さい子どもの場合は、放射線の影響を受けやすく、がんや白血病になりやすい。市では子どもたちができるだけ危険に遭わないような方策をとっているのか。

原発利用に倫理的根拠はあるのか。
市長 内部被ばくの検査機については、甲状腺検査に関する要望を県に提出しており、その結果を受けて対応したい。

まちづくり振興部長 給食食材の（放射能）検査を昨年9月1日から、給食完成品の検査を12月5日から行っているが、いずれも基準を下回っている。子どもたちの遊び場について、試

験的除染作業を行った公園では劇的に効果が出ている。校庭・園庭についても除染を行い、そういうところで子どもたちは活動している。※質問部分は、議員本人が編集しました。

駅前公有地売却

染谷 和博 議員

問 取手駅前公有地売却の不動産鑑定について、不当鑑定の疑いが報道されたが。市長 正式な手続きに基づいて実施したと認識している。

問 不動産鑑定は1者の随意契約で、法律違反との指摘がある。

都市整備部長 法律に基づき契約をしている。

問 実勢価格より安く売却されたという疑いがあるが。

答 正当な価格という評価を得ている。

問 C街区は、現状のまま売ったほうがいい気がする。造成して売った理由は。

中心市街地整備課長 市と県の土地が一体的に整備できないため、必要最低限で使える形で整備をした。

問 不動産鑑定の際に、進入路を前提条件に含めなかった理由は。

答 売却した土地に隣接する市の土地に駐輪場の計画と進入路の計画をしているが、事業の確実性が低いと

め鑑定に含めていないと聞いている。

買い物支援と市のアピール

落合 信太郎 議員

問 買い物弱者支援について、自治体がリーダーシップをとり、NPO法人育成や住民と企業・団体の調整役に徹する方法も考えられる。買い物支援隊のようなNPOをつくるのはどうか。

まちづくり振興部長 守谷市の状況を見ると、公共交通での買い物支援は限界があるため、バス以外の形で検討している。買い物支援のボランティアやNPOが立ち上げれば、サポートできるのではないかと考えている。もし、具体的な動きをした場合は、地元の方々や協議して、何らかの支援ができるよう検討していきたい。

問 若い世代に取手をアピールするため、フィルムコミッション等の宣伝をどのように行っていくか。

答 年間10件程度ロケがあり、最近増える傾向にある。撮影情報は、ホームページに載せている。放送局関係の人が市内に多く住んでおり、その方がホームページを見てオフアワーが来る効果があるので、できるだけ多くの情報発信に努めたい。